

博士前期課程

博士前期課程の概要

1) 修業年限 2年

2) 専攻及び入学定員

機械工学専攻	6人
情報システム専攻	7人
生命環境化学専攻	7人

3) 専攻の教育研究分野

機械工学専攻	エネルギー工学教育研究分野 機械システム工学教育研究分野
--------	---------------------------------

情報システム専攻	情報工学教育研究分野 電子工学教育研究分野 先端材料教育研究分野 量子物性教育研究分野
----------	--

生命環境化学専攻	材料化学教育研究分野 環境化学教育研究分野 生命化学教育研究分野
----------	--

博士前期課程 機械工学専攻

目 的

われわれの豊かな生活は電気を始めとして様々な種類のエネルギーに依存している。かつては石炭や石油、あるいは原子力などを利用して発電してきたが、環境に与える影響を考慮して、現代ではより環境負荷が小さい水素エネルギーなどのグリーン・エネルギーへの転換を高める努力がなされている。一方、各種産業においてはエネルギーの有効活用という観点から、諸々の技術の高効率化が強く要請されている。また、高い性能を実現するために、より高機能な力学特性を持つ構造材料の設計・開発、新しい加工技術、自然災害を含む外部からの力学的擾乱に対する能動的および受動的制御が求められる。機械工学は生産に携わるあらゆる産業の基盤であるばかりでなく、到来しつつある高齢化社会において人々の暮らしをサポートして、豊かな生活から幸福な生活への転換を促す技術開発においても要となる分野である。

本専攻は、前述の社会的要請や高齢化社会における人々の幸福な生活の実現に対して柔軟に対応できる優れた技術者を養成することを目的としている。

上記の目的に照らして、従来の産業の基盤となっている熱・流体工学およびトライボロジーを母体とする「エネルギー工学教育研究分野」、材料力学、最適設計、計測制御工学および加工技術を母体とする「機械システム工学教育研究分野」の2つの教育研究分野によって、本専攻は構成されている。

教育研究分野の特色

「エネルギー工学教育研究分野」

わが国の未来の繁栄の鍵を握るエネルギーシステムについて、高効率エネルギー変換技術、低エネルギー消費型・低環境負荷型輸送システム、水素エネルギー利用技術、摩擦・摩耗の低減化によるエネルギー効率改善等の最新知識の教育および研究を行う。

本教育研究分野では熱力学、流体力学、トライボロジーにかかわる研究者で組織し、エネルギー先端技術の総合的な教育研究体制を取っている。

「機械システム工学教育研究分野」

機械工学分野において根本的な、機械を構成する材料、それを加工するための技術、また求められる機能を発揮できる適切な構造の設計に関する最新知識の教育および研究を行う。本教育研究分野では材料力学、最適設定、加工学、機械力学、制御工学を専門とする研究者から構成され、機械の設計・製作にかかわる総合的な教育研究体制を取っている。

工学研究科博士前期課程
機械工学専攻 所属教員及び研究内容

【エネルギー工学教育研究分野】

担 当 教 員	研 究 内 容
<p>石原 教 教授 学位：Ph.D.（イリノイ大学） 専攻分野：伝熱工学，燃焼学 研究テーマ： 1. 固体ロケット推進薬の燃焼 2. ハイブリッドロケットの燃焼</p>	<p>多くの固体ロケットに使用される固体推進薬は，酸化剤と燃料成分からなる。しかし，その燃焼は，極めて曖昧なところが多く，実験的な調査が必要とされている。また，多くの固体ロケットから排出される排気ガスには，多量の塩化水素が含まれ，環境汚染の原因になることも懸念されている。</p> <p>本指導教員の研究では，酸化剤と燃料成分を独立に燃焼させることにより，複雑な燃焼現象を単純化させ，複雑な燃焼機構を調べ，固体ロケットにおける問題を解明しようとしている。</p>
<p>小林 晋 教授 学位：工学博士（東京大学） 専攻分野：高速気体力学 研究テーマ： 1. 衝撃波の斜め反射現象における反射面音響インピーダンスの影響 2. 衝撃波の透過波に関する基礎的研究</p>	<p>高速気体中を伝播する波動，特に衝撃波が物体とどのような干渉をするかという問題について研究するため，実験的及び理論的な研究手法の理解と習熟を通して，新しい研究方法にも柔軟に対応できる応用力を養成する。実験結果の理論的な解析を通して物理現象を洞察し，仮説を立て，その仮説を証明するような実験を行い，実験と理論の双方向から現象を突き詰める。</p>
<p>高坂 祐順 教授 学位：博士（工学）（佐賀大学） 専攻分野：熱力学，伝熱工学，流体音響工学 研究テーマ： 1. 水素燃料電池自動車への水素充填法 2. 水素吸蔵合金を用いた水素駆動型冷凍機の開発</p>	<p>水素エネルギー有効利用の問題は，国のエネルギー開発の重要課題とされており，今後，更なる発展が期待される分野である。次世代エネルギーである水素エネルギーを有効に利用するための水素貯蔵・輸送法および水素利用システムの開発を目標に熱力学，伝熱工学に基づき理論的・実験的研究方法を用いて熱解析などの計算モデルを構築し，燃料電池自動車の水素充填問題や水素吸蔵合金を使用した水素貯蔵器や熱駆動型冷凍機など水素利用システム開発に係わる研究を行う。</p>
<p>長谷 亜蘭 准教授 学位：博士（工学）（千葉大学） 専攻分野：トライボロジー，機械加工 研究テーマ： 1. トライボロジー現象の解明と診断・評価に関する研究 2. 工作機械の状態監視と知能化に関する研究</p>	<p>トライボロジー現象（摩擦・摩耗現象）は，様々な機械システムにおける機械要素部品の摺動部に介在し，摩擦によるエネルギーロスや摩耗によるマテリアルロスを生じさせる。低環境負荷の観点から，様々な手法を用いてトライボロジー現象を解明し，摩耗理論の確立，現象診断や特性評価への応用を目指す研究を行っている。また，機械加工（主に精密切削加工）に関する研究として，マイクロ工作機械の開発や加工精度維持のための加工状態監視技術，工作機械の知能化に関する研究を行っている。</p>

【機械システム工学教育研究分野】

担 当 教 員	研 究 内 容
<p>植 希 裕 教授 学位：博士（工学）（東京工業大学） 専攻分野：CAD/CAE、最適設計 研究テーマ： 1. 機械構造の軽量化設計 2. CAE 技術による生産工程の最適化 3. 最適化技術による機械製品の品質向上</p>	<p>コンピュータを利用して、機械分野の設計および生産現場の問題を解決するため、強度剛性、振動騒音や衝突特性などの問題解析、三次元複雑構造の形状最適設計、折紙工学を利用した高性能自動車車体構造の開発、板金プレス、樹脂射出成形やダイカスト鋳造など生産工程の最適化、複合材料からなる積層板・シェル構造の最適設計などの研究活動を行う。</p>
<p>福島 祥夫 教授 学位：博士（工学）（群馬大学） 専攻分野：成形加工、CAD/CAE 研究テーマ： 1. プラスチック射出成形加工・砂型鋳造加工における解析及び計測に関する研究 2. 金型設計・加工及び最適設計手法に関する研究 3. CAD/CAE を活用した実用化設計に関する研究</p>	<p>日本はものづくりを主体として発展してきたことは言うまでもない。昨今では部品の軽量化に関する技術が注目を浴びていると同時に、如何に早く安く製造できるかという技術も重要である。これらに対応できるプラスチック射出成形や砂型鋳造など型を利用した部品製造、樹脂流動解析、湯流れ解析、品質工学など CAD/CAE や最適化手法を用いた効率化設計についても研究し、社会のニーズに対応できる技術者の育成を行う。</p>
<p>上月 陽一 教授 学位：博士（工学）（金沢大学） 専攻分野：材料強度学 研究テーマ： 1. 結晶中の不純物サイズによる変形特性への影響に関する研究 2. 材料表面の状態による変形特性への影響に関する研究</p>	<p>金属材料の加工プロセスには、その材料の塑性変形を生じていることが多い。それらはほとんどの場合、転位（結晶中の線欠陥）のすべり運動によって担われている。ここでは特に、転位の運動に基づいた微視的な結晶塑性に関して詳細に調べる。圧縮変形中超音波振動付加下での歪速度急変試験から得られたデータを主に分析し、得られた結果を論理的に解明することができる能力を涵養する。</p>
<p>榎川 佳祐 准教授 学位：博士（工学）（東京電機大学） 専攻分野：機械力学 研究テーマ： 1. 機械構造物の耐震性評価に関する研究 2. 配管系の損傷モニタリングに関する研究 3. 長周期地震動に対応した制振装置の研究</p>	<p>我が国において地震は避けられない自然災害の一つであるが、その被害を最小限に抑えることは、極めて重要である。ここでは、地震から機械構造物や建物を守る技術进行研究する。具体的には、構造物がどれくらい揺れに耐えられるのか（耐震性）の評価や、構造物の揺れを抑制する技術（制振）などの研究である。研究テーマに応じて、理論的検討、実験、シミュレーション解析、設計、開発などを行い、柔軟な思考力と深い洞察力を養う。</p>
<p>安藤 大樹 准教授 学位：博士（工学）（名古屋大学） 専攻分野： 機械力学学、制御工学、システム設計工学 研究テーマ： 1. 機能的に変柔軟構造とその制御系の統合化設計 2. 産業用小型電動ロボットハンドの開発 3. 低侵襲外科手術用柔軟鉗子の開発 4. 身体障害者用自助具の開発</p>	<p>制御機械システムにおける機構系と制御系を統合的に設計することにより、両系を区別して設計する従来の設計手法の限界をブレイクスルーする設計技術の確立を目指す。 特に、柔軟性を積極的に利用することにより構造に新しい機能をもたせるコンプライアントメカニズム、機能的連続体、連続体ロボットなどの機構系と制御系の統合化設計の研究を行っている。</p>
<p>河田 直樹 准教授 学位：博士（工学）（群馬大学） 専攻分野：計測工学、制御工学、品質工学 研究テーマ： 1. 機械加工の評価方法及最適化に関する研究 2. 状態監視技術を用いた各種機械のモニタリングシステムの開発 3. パターン認識技術を用いた機械加工品の画像等による検査・判定技術の開発</p>	<p>ものづくりの現場では生産技術が重要で、製品品質の作りこみに欠かせない。また、良い品物を継続して市場に提供するためには、最適な製造条件を作りこみ、それを維持していく必要がある。そのために、種々の生産設備が正常に稼働していることを監視する状態監視技術や完成した製品の検査技術が重要となる。 これらの技術を生産現場に効果的に導入するため、対象とする種々の加工条件の最適化、加工条件に大きく影響する状態量の計測システムの構築、IoT や AI、パターン認識手法等を用いた異常検知、変化検知に関する研究を中心に展開する。</p>
<p>高橋 俊典 講師 学位：工学博士（東京大学） 専攻分野：塑性加工 研究テーマ：塑性加工を用いた微細加工</p>	<p>塑性加工は現在のものづくりを支える重要な加工法の一つである。加工精度は向上し、加工可能な形状、方法も多様なものとなっている。ここではこの塑性加工の基本的な性質を調べ、特に微細な形状成形を可能とする手法を探索する。</p>
<p>荻原 隆明 講師 学位：博士（工学）（群馬大学） 専攻分野：制御工学 研究テーマ： 1. PID制御に関する研究 2. 制御対象の特徴を利用した制御系設計法に関する研究</p>	<p>様々な要素技術の発達にもとない、制御工学が対象とするシステムは、大規模化かつ複雑化し、あらゆる製品に制御理論が使われ、制御理論や制御技術は産業の発展に多大な貢献をしている。そして、新たな制御理論や制御技術が生まれると、さらなる性能向上や付加価値の増大が見込まれる。そこで、これまでの制御理論をベースにし、新しい制御理論や制御技術の研究とそれらの実システムへの応用に関する研究を行う。</p>

博士前期課程 機械工学専攻 授業科目

[エネルギー工学教育研究分野]

授 業 科 目	単位数	担 当 教 員	職 名	学 位
熱力学特論	2	石 原 敦	教 授	Ph. D. (イリノイ大学)
伝熱工学特論	2	石 原 敦	教 授	Ph. D. (イリノイ大学)
高速気体力学	2	小 林 晋	教 授	工学博士 (東京大学)
流体力学特論	2	小 林 晋	教 授	工学博士 (東京大学)
熱エネルギー工学特論	2	高 坂 祐 顕	教 授	博士 (工学) (佐賀大学)
熱工学特論	2	高 坂 祐 顕	教 授	博士 (工学) (佐賀大学)
トライボロジー特論	2	長 谷 亜 蘭	准教授	博士 (工学) (千葉大学)
内燃機関特論	2	小 西 克 享	非常勤講師	工学博士 (東京大学)
エネルギー工学特別演習 I ~ IV	各 1	石 原 敦	教 授	Ph. D. (イリノイ大学)
エネルギー工学特別論講 I ~ IV	各 1	小 林 晋	教 授	工学博士 (東京大学)
		高 坂 祐 顕	教 授	博士 (工学) (佐賀大学)
エネルギー工学特別実験 I ~ II	各 4	長 谷 亜 蘭	准教授	博士 (工学) (千葉大学)

[機械システム工学教育研究分野]

授 業 科 目	単位数	担 当 教 員	職 名	学 位
最適設計特論	2	趙 希 祿	教 授	博士 (工学) (東京工業大学)
材料力学特論	2	趙 希 祿	教 授	博士 (工学) (東京工業大学)
成形加工特論	2	福 島 祥 夫	教 授	博士 (工学) (群馬大学)
材料強度学特論	2	上 月 陽 一	教 授	博士 (工学) (金沢大学)
機械力学特論	2	皆 川 佳 祐	准教授	博士 (工学) (東京電機大学)
マルチボディシステム工学特論	2	安 藤 大 樹	准教授	博士 (工学) (名古屋大学)
塑性加工学特論	2	高 橋 俊 典	講 師	工学博士 (東京大学)
制御工学特論	2	萩 原 隆 明	講 師	博士 (工学) (群馬大学)
機械システム工学特別演習 I ~ IV	各 1	趙 希 祿	教 授	博士 (工学) (東京工業大学)
		福 島 祥 夫	教 授	博士 (工学) (群馬大学)
		上 月 陽 一	教 授	博士 (工学) (金沢大学)
機械システム工学特別論講 I ~ IV	各 1	皆 川 佳 祐	准教授	博士 (工学) (東京電機大学)
		安 藤 大 樹	准教授	博士 (工学) (名古屋大学)
		河 田 直 樹	准教授	博士 (工学) (群馬大学)
機械システム工学特別実験 I ~ II	各 4	高 橋 俊 典	講 師	工学博士 (東京大学)
		萩 原 隆 明	講 師	博士 (工学) (群馬大学)

[共通]

授 業 科 目	単位数	担 当 教 員	職 名	学 位
インターンシップ	2	萩 原 隆 明	講 師	博士 (工学) (群馬大学)
技術経営論 (MOT論)	2	青 木 恭 弘	教 授	工学博士 (大阪大学)

博士前期課程 情報システム専攻

目 的

20世紀から生まれた電気・電子工学は、情報革命をもたらし、高性能なコンピューターを生み、インターネット社会の実現に中心的な役割を果たし、21世紀に入った今日も著しい発展を続けている。

本専攻は、情報技術進歩を期待されるなか、情報工学、電子工学、先端材料、量子物性の四つの教育研究分野を対象としている。専門知識を体系的に修得させるための講義科目、専門知識を使いこなすための演習・輪講・実験・研究科目を設ける。学生は、教育研究の課程において、シミュレーション実験技術やシステム構築技術及び試作技術を体験習得するとともに、理論と実践を結合して検討することになる。これによって、情報システム、知能システム、ネットワーク、電子通信システム、先端材料、量子物性などの分野において、幅広い視野と高度な専門知識を有する人材を育成する。

教育研究分野の特色

「情報工学教育研究分野」

高度な情報処理システム、情報ネットワーク、人間に友好的なインタフェースなど新しい情報化社会に適応するシステムの基礎研究や応用技術開発の教育研究分野である。知的ネットワークシステム、生体情報を利用した情報セキュリティ、医用画像処理・認識と可視化、知能・福祉・防災などのロボットシステム、ヒューマンコンピュータインタラクション、ニューラルネットワークと人工知能などの技術開発に関する先端的な分野に体系的な教育研究を行う。

「電子工学教育研究分野」

アナログ・デジタル電子デバイスの設計開発、プラズマ工学、有線・無線通信工学、画像工学、信号処理と伝送システムの基礎理論と基礎技術から、脳・コンピューターインタフェースの開発試作、情報システムに対応するアンテナの設計試作、大容量・長距離光ファイバ伝送技術の設計構築、ネットワーク技術を駆使したシステム開発、画像変換と復元処理技術の開発、光計測技術、脳波と脳磁界の計測と解析などの情報通信システムの応用技術に至る幅広い教育研究を行う。

「先端材料教育研究分野」

粒子線と物質の相互作用の解明、新規電子素子開発に結びつく機能設計や物質設計と評価、ナノ材料の開発など凝縮物質の基礎現象から様々な応用に至るまで、電子材料の基礎と応用に必要な教育研究を行い、半導体工学を駆使したエネルギー制御などの基礎知識から応用技術開発まで広範囲な学問的な理解と実践を得るために必要な教育研究を行う。

「量子物性教育研究分野」

素粒子・原子の世界をひもとく量子力学、統計物理学、凝縮物質を解明する固体量子論、結晶学などにより、物質の性質を基礎から解き明かす理論を習得させるために必要な教育研究を行う。

工学研究科博士前期課程
情報システム専攻 所属教員及び研究内容

【情報工学教育研究分野】

担 当 教 員	研 究 内 容
<p>渡部 大志 教授 学位：博士（理学）（東北大学） 専攻分野： 微分幾何学，情報数学，応用画像工学 研究テーマ： 1.顔による個人認証，監視システムの研究 2.耳介による個人認証システムの研究</p>	<p>ネット上での決済や金融機関の端末などで個人認証が必要な場面が増えた。通常、個人認証にはパスワードが利用され、普通に生活していても数多くのパスワードを管理しなくてはならなくなった。管理の問題から一度漏れてしまえば他人の「なりすまし」が可能であり危険である。そこで、盗難，紛失，漏洩の恐れのない、本人だけがもつ特徴を利用し個人を認証する生体認証技術が注目を集めている。当研究室では顔と耳の認証の研究をおこなっている。</p>
<p>橋本 智己 教授 学位：博士（工学）（宇都宮大学） 専攻分野：ロボット工学，認知科学 研究テーマ： 1.工学的心理モデルの提案 2.生活支援ロボット</p>	<p>少子高齢社会を迎え、機械システムによる支援が期待されている。本研究室では、家庭環境で人間と共に生活し人間を支援する自律ロボットや生活支援ロボットの開発を進めている。</p>
<p>山崎 隆治 教授 学位：博士（工学）（大阪大学） 専攻分野：医用画像解析学 研究テーマ： 1.骨関節の3次元形態・運動機能計測 2.医用画像処理技術の研究・開発 3.医療用自動解析ソフトウェアの開発</p>	<p>一般に医療機関では、病気の検査，病態の可視化などを目的として、多くは X線レントゲンや CT 装置などから取得される医用画像が利用されている。それら医用画像情報を適切に処理，認識，可視化し，病気などの情報を正確に計測，解析することは，精密な診断，治療方針の決定などに極めて重要である。当研究室では，様々な情報工学技術（画像処理技術）を開発し，医療分野に応用する研究を行っている。</p>
<p>飯井 政祐 教授 学位：博士（工学）（埼玉大学） 専攻分野：ユーザインタフェイス， ヒューマンコンピュータインタラクション 研究テーマ： 1.拡張現実感を用いて直感的に操作できるシステム 2.VR 空間内での効果的なインタラクション 3.人指向 IoT</p>	<p>コンピュータのモディティ化に伴い、誰にでもわかりやすいユーザインタフェイスはますます重要になっている。本研究室では、拡張現実感(AR)、仮想現実感(VR)、人間センシング、環境センシング、タッチパネル、スマートフォン、IoT 技術などを用いて、直感的で人にやさしいユーザインタフェイス/インタラクションを研究している。</p>
<p>大山 航 教授 学位：博士（工学）（三重大学） 専攻分野：知能情報システム 研究テーマ： 1.パターン認識，画像センシング 2.機械学習，データサイエンス 3.文字・文書の解析と認識</p>	<p>実データサイエンスとしてのパターン認識、機械学習、メディア情報処理の研究を行っている。現在の主な研究トピックは、署名照合などの個人認証技術、文書やドキュメントの認識と解析、画像センシング技術の産業応用などである。また、医学（心エコー画像の解析）、歴史学（古文書、木簡の解析）、家政学（調理動作の認識）など他の学問分野とのコラボレーションも積極的に進めている。</p>
<p>井上 聡 准教授 学位：博士（工学）（電気通信大学） 専攻分野：生体情報処理， ニューラルネットワーク 研究テーマ： 1.メンブクロウによる高精度音源定位マップ形成のニューラルメカニズム。 2.時空間的タスクを実現するワーキングメモリに関する研究 3.最適化問題のニューラルネットワークによる解法</p>	<p>生物がもつ脳内の情報処理機能，特に視覚・聴覚を中心とした感覚系情報処理プロセスや，感覚刺激により誘起される運動の制御メカニズムについて考察する。そして，その緻密な機能をニューラルネットワークの理論に基づきコンピュータ上に再現，シミュレーションを行い，感覚情報処理・運動制御をシームレスにとらえる研究を行う。また生物がもつ優れた情報処理機構を工業的に応用する方法についても併せて検討する。</p>
<p>前田 太陽 准教授 学位：博士（理学）（金沢大学） 専攻分野：問題解決環境 （Problem Solving Environments） 研究テーマ： 1.支援システムの開発 2.自然科学分野の可視化，社会科学分野の可視化</p>	<p>特別な知識やスキルがなくとも利用できるコンピュータシステムである問題解決環境の構築と，アプリケーションに必要となる，可視化，分散・並列計算による作業効率化の研究を行う。計算科学と計算機科学がより融合した支援システムの構築を目指す。</p>

【電子工学教育研究分野】

担 当 教 員	研 究 内 容
<p>曹 建庭 教授 学位：博士（工学）（千葉大学） 専攻分野： 知能システム工学，信号処理工学 研究テーマ： 1. 脳波や脳磁界データ解析と脳内情報可視化に関する研究 2. ブラインド信号処理の理論と音声・画像・移動通信への応用に関する研究</p>	<p>複数話者の会話から収録した混合音声を個別の音声信号に復元する問題や、脳波や脳磁界の記録から個別な活動信号源の抽出と脳内情報を可視化する問題を、これまでの信号処理の技術で解決するには困難なところが多い。このようなニーズに応じるため、先端的な信号処理の理論と技術の研究開発が要求されている。本研究室では、近年提唱されている独立成分解析(ICA)と呼ばれる新しいブライント信号処理の方法を中心に、従来の信号処理の方法との関係と両者の違いを理解し、その優位性や問題点について考える。また、ブライント信号処理の特徴を活かしたモデルと推定システムの設計、計算原理、シミュレーションなどの基本技法を習得する。更に、人間の視聴覚系の生理実験、脳波と脳磁界の計測、データ解析と評価、音源分離システムの構築などを総合的に研究開発する。</p>
<p>吉澤 清和 教授 学位：Ph. D.（オレゴン州立大学） 専攻分野：アナログ集積回路工学 研究テーマ： 1. 超低消費電力オペアンプ回路に関する研究 2. 超低電圧動作 DC-DC 変換回路に関する研究 3. ナノアンペア電流検出回路</p>	<p>自然界に存在する物理量（たとえば音声、映像等）はほとんどすべてがアナログ量である。これらのアナログ量とデジタル電子機器とのインターフェースはアナログ・デジタルミックスモード回路が行っている。その結果デジタル機器の特性は、アナログ回路の特性で左右される。また電子機器の小型化・軽量化が進むにつれて、より小さな乾電池や二次電池での回路動作が要求される。そのため、低電圧動作・低消費電力の集積回路のニーズが高まっている。本回路研究室では、低電圧・低消費電力・高精度をテーマに、CMOS アナログ IC の設計技術を研究する。</p>
<p>松井 章典 教授 学位：博士（学術）（埼玉大学） 専攻分野：電磁波工学 研究テーマ： 1. 平面アンテナの構成法の提案と放射特性の解析 2. 高周波領域において多機能性を有する無線通信回路の研究</p>	<p>無線通信に用いられるアンテナは、その用途に応じて形態を変える必要がある。特に平面アンテナはロープロファイル性を有していることから様々な応用分野で用いられている。そこで、用途に応じた平面アンテナの構成法を提案し、その放射特性を実験と理論、さらにはコンピュータシミュレーションにより解明する。</p>
<p>青木 恭弘 教授 学位：工学博士（大阪大学） 専攻分野：光ファイバ通信、通信工学， オプトエレクトロニクス 研究テーマ： 1. 光ファイバ通信の高度化に関する研究 2. 次世代光通信技術に関する研究 3. IoT センシング技術に関する研究</p>	<p>光ファイバ通信は、1970年代に低損失な光ファイバ、半導体材料による小型なレーザが実現されて以来、目覚ましく進歩し、現在では情報通信技術 (ICT) 社会のインフラストラクチャとして家庭にまで浸透している。本研究室では、デジタル信号処理を適用した新たな光変復調技術や、伝送性能の制限要因となる光ファイバ非線形光学効果、光雑音累積の影響の補償および低減技術、将来方式とされている波長、容量、接続先などを自由に行える次世代光通信技術について研究を行っている。</p> <p>また、ICT の飛躍的な進歩により、現在では、インターネットにつながる機器も多種多様化し、急速に増大しつつある。この研究室では、各種センサーと手のひらサイズコンピュータ、クラウドなどを組み合わせた IoT センシング・通信システム技術に関する研究開発を行い、次の情報通信社会への発信、貢献を目指している。</p>
<p>佐藤 進 教授 学位：博士（学術）（埼玉大学） 専攻分野： イオンビーム、マイクロ波、プラズマ工学 研究テーマ： 1. イオンビーム応用に関する研究 2. マイクロ波液中プラズマに関する研究 3. マイクロ波応用に関する研究</p>	<p>電子レンジによる食品加熱に代表されるように、電磁波(高周波、マイクロ波)は、通信のみならず電力として、家庭のみならず産業界においても広く使われている。これらの電磁波応用の一つにプラズマがあり、プラズマは半導体製造には欠くことのない技術となっている。本研究室では、こうしたマイクロ波応用、プラズマ発生技術を扱う。特に、液中にプラズマを発生させるマイクロ波液中プラズマは、世界的にも先端的な技術であり、今後の発展が期待されている。このような先端的な技術開発を題材にして、次世代を担う人材を育てることを目指す。</p>
<p>伊丹 史緒 講師 学位：博士（工学）（芝浦工業大学） 専攻分野：信号処理のための回路・システム 研究テーマ： フィルタ・マルチレート処理と画像解析</p>	<p>信号システム理論において、フーリエ変換や DCT、ウェーブレット変換などは、信号解析の一手法として位置づけられる。本研究では、各種の変換を包括的に表現できるフィルタ・マルチレート処理を用いた、信号解析のためのシステムに関する研究を行う。異なった形態の信号を処理できるシステムや、サンプリングレート変換とフィルタを組み合わせたシステム等に関する定式化とシミュレーションを行う。また応用としては、音声や画像等の処理が挙げられるが、ここでは二次元信号である画像への応用、特に画像圧縮技術や認識処理、解像度変換への応用に関して議論する。</p>

【量子物性教育研究分野】

担 当 教 員	研 究 内 容
<p>内田 正哉 教授 学位：Ph. D.（総合研究大学院大学） 専攻分野：電子顕微鏡，ナノテクノロジー，量子物性材料 研究テーマ： ナノテクノロジーによる波動関数制御</p>	<p>「量子ドット」や「メタマテリアル」に代表されるように、ナノテクノロジーにより、革新的な特性をもつ材料やデバイスが作りだされてきた。これらはナノ構造体を用いて波動関数を人工的に制御したものと見ることができる。また、われわれが世界で初めて生成した「軌道角運動量をもつ電子ビーム」もその一つである。本研究室では、最先端のナノテクノロジーを駆使し、波動関数を制御することで、新しい量子現象の発見や革新的材料やデバイスの創生、新規材料分析方法の開発を目指している。</p>
<p>松田 智裕 准教授 学位：理学博士（東京大学） 専攻分野：場の理論の数理と応用 研究テーマ： 物質生成と対称性の破れ</p>	<p>素粒子・宇宙論・物性の3分野で場の理論を基礎とした理論的な研究を行う。近年は上記の3分野を横断する研究が盛んに行われており、トポロジーやエンタングルメントエントロピーなどがその代表例である。String Theory, Brane, 多次元の場の理論、凝縮系の物理学とその周辺について、数理的な問題や宇宙観測、物性を含む現象論的な問題点を解決していくことを目的とする。</p>

博士前期課程 情報システム専攻 授業科目

[情報工学教育研究分野]

授 業 科 目	単位数	担 当 教 員	職 名	学 位
メディア工学特論	2	渡 部 大 志	教 授	博士 (理学) (東北大学)
知能ロボット工学特論	2	橋 本 智 己	教 授	博士 (工学) (宇都宮大学)
医用画像情報学特論	2	山 崎 隆 治	教 授	博士 (医学) (大阪大学)
フィジカルコンピューティング特論	2	鯨 井 政 祐	教 授	博士 (工学) (埼玉大学)
パターン認識特論	2	大 山 航	教 授	博士 (工学) (三重大学)
神経情報処理特論	2	井 上 聡	准教授	博士 (工学) (電気通信大学)
ネットワークコンピューティング特論	2	前 田 太 陽	准教授	博士 (理学) (金沢大学)
マルチエージェント特論	2	服 部 聖 彦	非常勤講師	博士 (工学) (東京工業大学)
情報セキュリティ特論	2	高 畑 一 夫	非常勤講師	博士 (ソフトウェア情報学) (岩手県立大学)
有限差分法特論	2	桑 名 杏 奈	非常勤講師	博士 (理学) (お茶の水女子大学)
シミュレーション工学特論	2	桑 名 杏 奈	非常勤講師	博士 (理学) (お茶の水女子大学)
情報工学特別演習 I～IV	各 1	渡 部 大 志 橋 本 智 己	教 授 教 授	博士 (理学) (東北大学) 博士 (工学) (宇都宮大学)
情報工学特別輪講 I～IV	各 1	山 崎 隆 治 鯨 井 政 祐 大 山 航	教 授 教 授 教 授	博士 (医学) (大阪大学) 博士 (工学) (埼玉大学) 博士 (工学) (三重大学)
情報工学特別実験 I～II	各 4	井 上 聡 前 田 太 陽	准教授 准教授	博士 (工学) (電気通信大学) 博士 (理学) (金沢大学)

[電子工学教育研究分野]

授 業 科 目	単位数	担 当 教 員	職 名	学 位
信号処理特論	2	曹 建 庭	教 授	博士 (工学) (千葉大学)
集積回路工学特論	2	吉 澤 浩 和	教 授	Ph.D. (オレゴン州立大学)
電磁波工学特論	2	松 井 章 典	教 授	博士 (学術) (埼玉大学)
光通信工学特論	2	青 木 恭 弘	教 授	工学博士 (大阪大学)
放射光工学特論	2	佐 藤 進	教 授	博士 (学術) (埼玉大学)
回路システム工学特論	2	伊 丹 史 緒	講 師	博士 (工学) (芝浦工業大学)
電子工学特別演習 I～IV	各 1	曹 建 庭 吉 澤 浩 和	教 授 教 授	博士 (工学) (千葉大学) Ph.D. (オレゴン州立大学)
電子工学特別輪講 I～IV	各 1	松 井 章 典 青 木 恭 弘 佐 藤 進	教 授 教 授 教 授	博士 (学術) (埼玉大学) 工学博士 (大阪大学) 博士 (学術) (埼玉大学)
電子工学特別実験 I～II	各 4	伊 丹 史 緒	講 師	博士 (工学) (芝浦工業大学)

【先端材料教育研究分野】

授 業 科 目	単位数	担 当 教 員	職 名	学 位
半導体デバイス特論	2	吉 澤 浩 和	教 授	Ph. D. (オレゴン州立大学)
粒子線工学特論	2	佐 藤 進	教 授	博士 (学術) (埼玉大学)
電子線・X線分析特論	2	佐 藤 進	教 授	博士 (学術) (埼玉大学)
ナノ材料工学特論	2	内 田 正 哉	教 授	Ph. D. (総合研究大学院大学)
プラズマ工学特論	2	古 谷 清 藏	非常勤講師	博士 (工学) (長岡技術科学大学)
弾塑性力学特論	2	巨 東 英	非常勤講師	博士 (工学) (京都大学)
材料製造プロセス特論	2	巨 東 英	非常勤講師	博士 (工学) (京都大学)

【量子物性教育研究分野】

授 業 科 目	単位数	担 当 教 員	職 名	学 位
熱・統計物理学特論	2	松 田 智 裕	准教授	理学博士 (東京大学)
量子力学特論	2	松 田 智 裕	准教授	理学博士 (東京大学)
固体量子論特論	2	松 田 智 裕	准教授	理学博士 (東京大学)
結晶工学特論	2	光 岡 重 徳	非常勤講師	博士 (工学) (埼玉工業大学)
量子物性特別演習 I～IV	各 1	内 田 正 哉 松 田 智 裕	教 授 准教授	Ph. D. (総合研究大学院大学) 理学博士 (東京大学)
量子物性特別輪講 I～IV	各 1			
量子物性特別実験 I～II	各 4			

【共通】

授 業 科 目	単位数	担 当 教 員	職 名	学 位
技術経営論 (MOT論)	2	青 木 恭 弘	教 授	工学博士 (大阪大学)
インターンシップ	2	松 田 智 裕	准教授	理学博士 (東京大学)
材料分析・評価実習	2	古 谷 清 藏	非常勤講師	博士 (工学) (長岡技術科学大学)

博士前期課程 生命環境化学専攻

目 的

科学技術の進歩が著しい中で、特に現代の重要課題である、新素材の開発、環境問題の解決、バイオテクノロジーの発展などにおいて、飛躍的な発展が続いている。

本専攻では、それに対応して、材料化学、環境化学、生命化学の3分野を設け、社会のニーズに応え、科学技術の進歩に柔軟に対応し、これらの日本を支える優れた技術者、研究者を育成することを目指している。

教育研究分野の特色

「材料化学教育研究分野」

材料化学分野では、今後期待される新素材開発を行うため、有機化学、無機化学、電気化学、光材料化学などを基礎として、有機合成手法の開発、新規光機能性材料の開発、新規デバイスの開発など、材料化学に関する総合的な教育研究を行う。

「環境化学教育研究分野」

環境化学分野では、地球規模で問題となっている環境問題を解決するため、環境・エネルギー化学、電気化学、計測化学、触媒化学、無機化学および物理化学などを基盤として、環境浄化、省エネルギープロセスの開発、燃料電池の開発、廃棄物の再資源化など、環境化学に関する総合的な教育研究を行う。

「生命化学教育研究分野」

生命科学分野では、医療分野でも注目を集めるバイオテクノロジーの発展に寄与するため、生化学のみならず、生理学、バイオエレクトロニクス、遺伝子工学、微生物工学、植物分子生物学などを基礎として、バイオセンサ、生体情報の伝達、遺伝子発現制御、微生物を用いた有用物質の生産、植物の新品種育成など、生命化学に関する総合的な教育研究を行う。

工学研究科博士前期課程
生命環境化学専攻 所属教員及び研究内容

【材料化学教育研究分野】

担 当 教 員	研 究 内 容
<p>岩崎 政和 教授 学位：工学博士（東京大学） 専攻分野：有機合成化学，有機金属化学 研究テーマ： 1.パラジウム錯体触媒を用いたアリルエステルと末端アルキンの、一酸化炭素挿入をカップリング反応 2.パラジウム錯体触媒を用いたカルボニル化反応による新規な4員環化合物の合成</p>	<p>遷移金属錯体触媒を用いて、一酸化炭素を炭素源とする新規な炭素骨格の構築反応（カルボニル化反応）の開発を目的としている。錯体触媒は配位子の微妙な変化を制御しやすく、触媒反応のモデル化合物の分析も容易である。一酸化炭素は石炭・石油から容易に入手できる安価な炭素源であり、金属との相互作用も広く調べられている。またバルク合成のみならず、付加価値の高いフェイン化合物の合成にも重点を置いている。</p>
<p>丹羽 修 教授 学位：工学博士（九州大学） 専攻分野： 分析化学、電気化学、マイクロ・ナノ化学 研究テーマ： スパッタナノカーボン薄膜電極を用いた化学センサ、バイオセンサの開発</p>	<p>高性能な化学センサやバイオセンサの実現には、新機能を有する材料開発が必要である。本研究室では、スパッタ法などの真空法を利用して、原子レベルで平坦なカーボン薄膜やナノ粒子が埋め込まれたカーボン薄膜など様々な電極材料を開発し、それを用いた、環境汚染物質、疾病のマーカー、食品中の抗酸化成分など様々な物質のセンシング法を研究する。単なる手法の研究に留まらず、マイクロ化技術を用いたセンサデバイスの開発も行っている。</p>
<p>田中 睦生 教授 学位：工学博士（大阪大学） 専攻分野： 材料化学、表面化学、分子認識化学 研究テーマ： 表面修飾材料、高分子材料、透過性材料、脂質、核酸等の機能性材料創製</p>	<p>我々の身の回りには、プラスチック製品や塗料、医薬品等、その機能が体感できる材料がある一方で、センサやディスプレイに代表されるように、様々な物質が相互作用してブラックボックスのように機能を発揮している材料も存在する。これらの材料は、社会基盤を支えるツールとして必要不可欠である。本研究室では、有機、無機物質を問わず、分子・原子レベルでの物質の物性を理解し、それらを組み合わせて目的とする機能を発現する材料の創製に関する研究を行う。</p>
<p>木下 基 准教授 学位：博士（工学）（大阪大学） 専攻分野：有機材料化学，光化学 研究テーマ：光機能材料の創製に関する研究</p>	<p>液晶はディスプレイ材料としてのみならず、自己組織化や協同現象を示す環境に優しい次世代の機能材料として注目されている。最大の長は、電場や磁場などの外場により、分子配向を変化させて、遷移モメント、誘電率や屈折率などのマクロな物性変化を誘起できることである。このため、機能材料への応用するためには、分子配向を如何に制御するかが鍵であり、クリーンかつ遠隔から高速に操作できる光を用いた分子配向手法の開発と材料への応用について研究を行っている。</p>

【環境化学教育研究分野】

担 当 教 員	研 究 内 容
<p>有谷 博文 教授 学位：博士（工学）（京都大学） 専攻分野：触媒化学，無機材料化学 研究テーマ： 環境浄化・エネルギー低負荷のための機能性無機材料の開発</p>	<p>無機材料はその構造や物性を制御することにより様々な機能性を与える。これを現代社会で求められている環境浄化やエネルギー低負荷など社会的問題の化学的な解決に利用するため、多様な機能性無機材料を合成するとともにその機能発現のための物理化学的条件、とくに構造的因子の解明を行う。これに基づいた材料の構造・物性の制御を行い、高活性機能を発現する新しい材料の創製を目的とする。</p>
<p>松浦 宏昭 准教授 学位：博士（理学）（筑波大学） 専攻分野：表面電気化学，分析化学 研究テーマ： 電気化学改質法と機能性触媒電極の開発に関する研究</p>	<p>より高度な物質情報変換システムの構築にあたっては、新規な各種機能性材料の開発が求められる。特に電極触媒の高機能化は、物質変換の省力化やエネルギー変換の効率化、さらに高機能性センサの開発に向けて大きく寄与できる。本研究室では、電気化学的手法で電極触媒の機能化法を見出し、得られた触媒材料の基本電極特性を解明した上で、エネルギー変換デバイスや化学センサ、リアクター等への応用を目指した研究開発を行っている。</p>
<p>本郷 照久 准教授 学位：博士（理学）（東京工業大学） 専攻分野：物質化学、環境システム工学 研究テーマ： 環境浄化材料の創製、地球温暖化防止技術の開発、リサイクルシステムの開発</p>	<p>持続可能な社会を実現するためには、解決しなければならない様々な問題を抱えている。その中でも、環境汚染、資源の枯渇、地球温暖化問題については、特に解決が急がれている。本研究室では物質化学をベースとしたアプローチにより、新規環境浄化材料の創製、地球温暖化を防止するための二酸化炭素の固定化技術開発、廃棄物を資源・エネルギーとして活用するリサイクルシステムの開発を行っている。</p>

【生命化学教育研究分野】

担 当 教 員	研 究 内 容
<p>熊澤 隆 教授 学位：薬学博士（北海道大学） 専攻分野：感覚生理学, 神経科学 研究テーマ： 味情報変換機構と味蕾内細胞ネットワークに関する研究</p>	<p>味は、塩味、酸味、甘味、苦味、旨味と五基本味に分類される。味蕾中の味受容細胞は、これらの化学物質を検知する役割を担っているが、詳細な受容機構は不明である。本研究室では、味応答を電気的あるいは光学的に測定し、味受容体分子の特性と情報変換機構について研究している。さらに、味蕾内における細胞間ネットワークについても研究している。</p>
<p>長谷部 靖 教授 学位：薬学博士（東北大学） 専攻分野：応用生物化学 研究テーマ： 生体分子の特異な機能に応用する新規バイオ機能デバイスの開発に関する研究</p>	<p>タンパク質や核酸に代表されるバイオ分子の優れた物質識別能力や触媒能力を工学的に応用し、電気化学デバイスと組み合わせたバイオセンサやバイオデバイスの開発に関する研究を行っている。</p> <p>これまでに化学的手法による酵素機能の改変や、触媒機能を付与したバイオフィルム、バイオ分子を固定化した多孔性導電性材料を利用するフロー型バイオセンサなどを開発してきた。今後は、バイオ分子の機能改変メカニズムやデバイス表面のバイオ分子のナノ構造を解明するとともに、医療、食品、環境、新エネルギー分野における実用的ニーズにマッチした新規バイオ機能デバイスの開発を目指す。</p>
<p>石川 正英 教授 学位：工学博士（東京大学） 専攻分野：遺伝子工学, 分子生物学 研究テーマ： 遺伝子の構造と発現に関する研究</p>	<p>生物は、すべて遺伝子であるDNAの遺伝情報をRNAに転写し、その情報を翻訳してタンパク質を合成している。本研究室では、生物にとって最も大切なこの遺伝子発現に関して、遺伝子の構造がどのように影響しているのか、遺伝子工学の手法を駆使して、解明することを目的として研究を行っている。</p>
<p>森田 勇二 教授 学位：博士（工学）（広島大学） 専攻分野：応用微生物学 研究テーマ： 人々の生活向上に向けた、微生物の応用研究</p>	<p>ノーベル賞の対象となった大村智博士の発見にも見られるように、「微生物を対象とする研究」は我々の生活の向上に大きく貢献してきた。微生物の有する多彩な機能を農業、食品、化学、環境、健康の各分野に応用するための研究は現在も世界で盛んに推し進められている。先端バイオテクノロジー（遺伝子工学、タンパク質工学、培養工学など）を利用し、有用微生物の応用研究を進めていく。</p>
<p>秋田 祐介 准教授 学位：博士（生命科学）（東北大学） 専攻分野：植物分子生物学, 植物生理学 研究テーマ： 植物の新品種育成に向けた基盤研究</p>	<p>植物の品種改良には、交配を中心とした従来の育種手法だと多大な時間と労力を必要としているため、効率的な手法が求められている。本研究室では、植物、特に花に着目し、花の「形態」や「色」、「芳香性」などの重要形質に関して、その形成機構を分子生物学的・生化学的な観点から解明し、これを利用して画期的・効率的な新品種育成に向けた方法を探索することを目的としている。現在は、埼玉県農林総合研究センターの開発した「芳香シクラメン」を主な研究材料としており、地域産業の発展にも貢献できる研究を行なっている。</p>

博士前期課程 生命環境化学専攻 授業科目

[材料化学教育研究分野]

授 業 科 目	単位数	担当教員	職 名	学 位
有機金属化学特論	2	岩 崎 政 和	教 授	工学博士（東京大学）
有機合成化学特論	2	田 中 睦 生	教 授	工学博士（大阪大学）
機能材料科学特論	2	木 下 基	准教授	博士（工学）（大阪大学）
高分子合成化学特論	2	萩 原 時 男	非常勤講師	工学博士（東京大学）
材料化学特論	2	萩 原 時 男	非常勤講師	工学博士（東京大学）
材料化学特別演習Ⅰ～Ⅳ	各1	岩 崎 政 和	教 授	工学博士（東京大学）
材料化学特別輪講Ⅰ～Ⅳ	各1	丹 羽 修	教 授	工学博士（九州大学）
		田 中 睦 生	教 授	工学博士（大阪大学）
材料化学特別実験Ⅰ～Ⅱ	各4	木 下 基	准教授	博士（工学）（大阪大学）

[環境化学教育研究分野]

授 業 科 目	単位数	担当教員	職 名	学 位
無機材料化学特論	2	有 谷 博 文	教 授	博士（工学）（京都大学）
計測化学特論	2	丹 羽 修	教 授	工学博士（九州大学）
応用電気化学特論	2	松 浦 宏 昭	准教授	博士（理学）（筑波大学）
環境化学特論	2	本 郷 照 久	准教授	博士（理学）（東京工業大学）
光・プラズマ化学特論	2	矢 嶋 龍 彦	非常勤講師	工学博士（東京工業大学）
環境化学特別演習Ⅰ～Ⅳ	各1	有 谷 博 文	教 授	博士（工学）（京都大学）
環境化学特別輪講Ⅰ～Ⅳ	各1	松 浦 宏 昭	准教授	博士（理学）（筑波大学）
		本 郷 照 久	准教授	博士（理学）（東京工業大学）
環境化学特別実験Ⅰ～Ⅱ	各4	本 郷 照 久	准教授	博士（理学）（東京工業大学）

[生命化学教育研究分野]

授 業 科 目	単位数	担当教員	職 名	学 位
生体情報特論	2	熊 澤 隆	教 授	薬学博士（北海道大学）
応用生体分子特論	2	長谷部 靖	教 授	薬学博士（東北大学）
遺伝子工学特論	2	石 川 正 英	教 授	工学博士（東京大学）
応用微生物工学特論	2	秦 田 勇 二	教 授	博士（工学）（広島大学）
生命科学特論	2	秋 田 祐 介	准教授	博士（生命科学）（東北大学）
生命科学特別演習Ⅰ～Ⅳ	各1	熊 澤 隆	教 授	薬学博士（北海道大学）
		長谷部 靖	教 授	薬学博士（東北大学）
生命科学特別輪講Ⅰ～Ⅳ	各1	石 川 正 英	教 授	工学博士（東京大学）
		秦 田 勇 二	教 授	博士（工学）（広島大学）
生命科学特別実験Ⅰ～Ⅱ	各4	秦 田 勇 二	教 授	博士（工学）（広島大学）
		秋 田 祐 介	准教授	博士（生命科学）（東北大学）

[共通]

授 業 科 目	単位数	担当教員	職 名	学 位
インターンシップ	2	秋 田 祐 介	准教授	博士（生命科学）（東北大学）
技術経営論（MOT論）	2	青 木 恭 弘	教 授	工学博士（大阪大学）